

近畿 戦後再開60周年を祝う

戦後支部再開六十周年を迎えた平成二十一年度近畿支部総会・懇親会は十一月十四日、大阪梅田の「大阪弥生会館」で開かれた。

冒頭、昨年の総会以降に逝去された三名の会員への黙祷、宇佐見支部長の「戦後再開から諸先輩のご尽力で今日の近畿支部がある。これを引き継ぎこれからも幅広く各世代の

参加を促して交流の輪を広げて行きたい」と挨拶。活動、会計報告などのあと、PHF友の会顧問の小澤弘道氏（S34）が松下幸之助氏の提唱した「素直な心」を説いた講演を行った。

懇親会は渡邊顧問（S20④）の発声で開宴となった。

会場を変えて 日立市で開催

茨城秋高会

平成二十一年度茨城秋高会総会は、これまで開いていた水戸市から場所を変え、五年ぶりに日立市で十一月十四日に開いた。

来賓に本部から山谷副会長、水戸一高同窓会知道会から沼尻副会長をお迎えしたが、開催地の関係からか出席者は例年より少なく十三名だった。

総会では、年間活動と決算報告が確認され、続いて同窓会本部と姉妹提携の水戸一高同窓会知道会との関係から平成三年に茨城秋高会が発足したが、その当時からご足労をいただいている山谷副会長が「在職時から今日まで」を講

お酒が入ると共に懇談の輪が広がった。六十周年記念ということで、旧校舎、旧秋田駅、昔の秋田の街並など懐かしい写真のプロジェクトでの投影、初参加者の挨拶、応援歌、校友会歌の斉唱などで会はいやがうえにも盛り上がった。最後は全員で校歌斉唱、藤田副幹事長（S47）のエールの後中締めとなった。（鈴木記）



話した。 続いての懇親会は、毎年のことながら秋田から蔵元直送の吟醸酒での乾盃が始まり、在学時代の思い出話を語り合い、先輩後輩の区別なく和気あいあい、皆、時の経つのを忘れて親睦を深めることがで

きた。

また、同ホテル宿泊者は、翌日、日立市にある国内唯一の鶴捕獲地・鶴の岬と吉田正記会館を見学し、散会した。

高橋克己（昭38年卒）記



秋田市役所羽城会 小国氏が新会長に

平成二十二年の同窓会秋田市役所支部羽城会総会は、一月十五日秋田キャッスルホテルで、約二百名が参加して開かれた。

二十一年度決算、役員改選などについて審議・承認され、新会長に小国裕実氏（S44卒）、副会長に佐々木淳一氏（S45卒）を選出した。

懇親会では、新入会員十名が紹介され、一人ひとりが壇上にあがって挨拶した。最後に、お馴染みとなった小国伸司氏（S49卒）の音頭で校歌を斉唱、鎌田修悦市議会議員（S39卒）の乾杯で締められた。

「つどい」の編集について（お知らせとお願い）

- 一、「つどい」の記事は写真を中心に、説明文はなるべく短くして下さい。
- 二、説明文や出席者名簿などの取り扱いは、編集委員会（広報委員）にお任せ下さい。
- 三、締切に間に合った原稿はできるだけ全部掲載するように努めますが、「つどい」の寄稿は毎回数が多く、編集の都合上次回に回すこともありま
- 四、発行日の変更に伴い、春季号の締切は三月下旬、秋季号は八月末が締め切りです。